

3495 地球のかおり 「山紫水明」 状況と心模様①

山水の美しい景色の形容に、山紫水明という言葉がある。

私の一生の中で、こんな光景に出遭えたのだから、何という幸せなことか。

紫という色彩は、高貴なイメージ。

今、住んでいるアトリエは、禅寺大徳寺の所領、京都の紫野。

広辞苑によれば、山紫水明とは、

日に映じて山は紫に、澄んだ水は、はっきり見えるとある。

まさにその通り。

中国桂林は、山水画の世界。

実は、白黒の山水画の世界しか、期待していなかった。山は紫、は想定外。

漓江下りは、訪問目的の広西チワン族自治区の東北部に位置する。

四方を山に囲まれた都市、桂林から、陽朔までの川下り。

カルスト地形による奇観、絶景の地。

山は紫、夢幻が現実となって眼前に出現。この感動はいかばかりか。

興奮を抑え、冷静に冷静にと言いつつ聞かせた。

訪問した季節は2月。かなり肌寒かった。ベストシーズンは4月から10月。

常にへそ曲がりなのか、人が行かない時期や行かないところを選択。

自然は思い通りにはならない。しかし、ラッキー、スマイル、オン、ミー。

自然の色彩は、光と温度と空気によって、つくられると言っても過言ではない。

なぜ、厳しい時期、冬場にこだわるのか。光が美しく、透明感がある。

だから、過酷なことも多い。

夏場より冬場が美しい。日本の富士山も同じ。

地球が温められる前が一番美しい。

遅くとも、午前7時までの光にこだわるのは、

空気的美しさと光の美しさ、光が、実にやわらかい。

夜明け前が、一番暗く、闇は深い。やがて、徐々に明るくなって来る夜明け。
この時間の経緯、この瞬きのために、すべてがあるように思える。
現場で、何が見られるかワクワクする。想像。この魅力から、もはや引き返せない。

* 漓江の状況

川は蛇行している。浪々と流れる漓江、急流もある。
自由に小舟を操れる流れの場所もあれば、流れに身をまかせ流れもある。
眼前に、絶壁が、迫るかと思えば、穏やかな流れもある。
尖った峰々の絶景が、微笑んでくれる瞬間、それまでの苦労が一挙に吹っ飛ぶ。
苦労の先に見える風景は、美しさが格別。これ実感。

小舟は二日前に約束。現場には午前3時に到着。
焚き火をしながら、暖をとる。ともかく、肌寒いところではない。
暖をとらないと、いたたまれない寒さ。
手を差し出し、温めながら、身を寄せて、火にあたる。目と目があう。
お互いの信頼感のような関係が出来ているのがわかる。
私をサポートしてくれた友人の通訳。彼なしにこの作品はない。感謝したい。
船頭さんも正式ではないらしい。心からの気配りを感じた。
私の熱意も中途半端ではなかった。何度も通った。危険承知で、協力してくれた。
その上、出発前の船頭さんの気配りもありがたかった。
囲炉裏に鍋をかけ、麺を振舞ってくれたのである。心使いが何とも嬉しい。

まわりは、土の地べたである。底冷えもする。我が身だけではない。
船頭さんも寒いに違いない。鍋からあがる湯気。
麺は、五臓六腑にしみわたる美味しさ。こんな瞬間を味わえる幸せ。
健康であること、運が味方。念願のこの地に来られた幸せ。

こんな経過や下記の協力や「運」が重なって「山紫水明」の作品ができた。

* 漓江下り、スタート

やがて、出発の時間、電気設備のある場所ではない。

足元も暗い。水際も見えにくい。船頭さんが手を差し出してくれ、無事乗船。

小さな船である。安定しない。お互いのバランスのとれる乗る場所。やがて、安定した。

硬く、握手。ありがとう、と日本語で。

通じるものがある。ニコリと笑ってくれた。船は、いまだ、いささか不安定。

和船と呼ぶより、筏のような小舟。覚悟はしている。

桂林の漓江下りには、観光船もある。夜が明けてからの出発である。

それでは眼前の光景に出くわさない。

この小舟を確保するのに、通訳がサポートしてくれたのは前述通り。

日本から来た先生。和紙で水墨画のような作品を創っている芸術家。東京銀座4丁目、

三越百貨店美術画廊で個展を開催した、超有名な先生。いささか、こそばい思い。

東京銀座、三越百貨店の知名度、威力はすごい。

プレゼント用の小作品やお土産、ポストカードも持参してきている。

この通訳の友人は、当時26歳。日本への興味や憧れを抱いていた夢多き青年。

相性も良かった。なにしろ一人旅。自由がきく。

半端でなく、何日も共にしている。コミュニケーションも深まり、恋人も紹介してくれた。

後日、お宅も訪問。家族も紹介してくれた。恋人の妹さんまで加わり、

皆んなでカラオケやハイキングにも出かけた。私には、将来の夢まで語ってくれた。

早朝というより、夜中である。舟小屋がある程度で、家らしい家はない。

通訳さんと私の熱意が通じたのか、何回かの交渉で、OKしてくれたのである。

今回は、前もって、ロケハンもしている。和紙を使った夢絵だけに、

また、水墨画の世界ということもあって、気合が入っている。たかが一枚の作品だが…

鋭角の峰々は面白いが、それだけでは平凡。私の求める作品にはならない。

写生画、写実画を超えたものの創作。具体的なイメージがわからない。

漓江の水量も少なく、ゴミも多い。その時期だけのことだったのか、印象として、実に汚い。

前日、川筋のゴミを集めることから始めたが、そんな量ではない。絵にならない。

期待していただけに、失望に近い状況。遠目、夜目、いろいろ想像しても始まらない。

桂林取材。制約された条件下で、本番に、全力を尽くすのみ。

知恵を絞っての苦肉の策が、夜明け前の出発。

やってみないと、わからない事が一杯ある。始めなければ始まらない。
失敗は、失敗で学ぶ事ができる。知恵も得られる。費用もかけ、時間もかけ、
楽しみ、学ばないことには、お金に申し訳ない。有り余るお金ではない。
失敗の数は、私が一番多いかもしれない。始めたのが遅い。
言い訳なし。まず、実践。失敗から学ぶ。今までそうしてきている。あとは、運の問題。
漓江の流れもある。船頭さんも通訳さんも、私の視点や感性を理解できるはずがない。
どの時間帯に、どのあたりを航行するか、予想できないから面白い。
流れもあり、思うようにはいかない。足元も不安定。
中国のお金に使われている名勝が、この漓江下りの途上にあるという。

自然相手、静止できない状況。その後の景観との出会いは、無我夢中の格闘の時間。
船頭さんの必死の対応。現場で五感を全開して体感する瞬間は、最高の至福の時間である。
何が起こるか分からない未知への挑戦。
今思うに、大の大人になった今も、いたずら心や遊び心を持ち合わせている。
純粹、少々抜けているからできる。神がかり的な運の助けもある。

今、文章を書いている、AIはじめ、世相がすっかり変わってしまうような出来事が多い。
私には、対応できない不安も脳裏に… 別な選択肢があるのではないか。
心模様もマンネリ？ ただし、ありがたいことに、興味を持っていただける方々もおられる。
サーバー統計も一定の数字があり、休ましていただいても、バックナンバーを…
未公開の画像は、まだまだストックはあり、日々外出、出会いもあり、取材も継続中。
反面、友人知人の訃報、引き際をいつにすればいいのか、そんな考えも脳裏をよぎったが…

10歳先輩の短歌集の「歌集読み、酒のみ短歌つくる日々、吾が最終章に、短歌あり」
「口かわき目もよくかわく老なれど、心かわかさず余生を生きる」と、元気をいただいた。
視点を変えて、日々、健康のため、小さな旅も含めて… 今に全力投球。
この日曜日、保津峡をママチャリ自転車で訪ねて、漓江下りを思い起こしていた。
隔日3日続けて奈良取材はじめ、機会に恵まれ会話。女性陣の元気さから力もらった。
その上、自然からのパワーも、もらった。琵琶湖半周も実践。
多少強がりだが、独りよがりには体力テスト、何よりも健康維持のため。
女性陣に勝とうとは思わないが、負けたくない。夢挑戦、健康で長くできれば、ありがたい。
昨日も奈良取材。まさかの地震発生。奈良への到着は午後2時…